

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスぷらう		
○保護者評価実施期間	2024年12月10日		2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2024年12月20日		2025年1月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間や活動場所が、子ども達にとって分かりやすく整えられており、安心して活動に取り組んでもらうことができる。	事業所内は、部屋の配置や物品の置き場所、掲示物等の視覚化・構造化を心がけ、使用・収納しやすいようにしている。 また、掲示物や室内の掲示物や装飾等は必要最小限に抑え、視覚過敏や気が散りやすい子どもにも過度の刺激にならないよう気をつけている。	子ども達が、先の見通しをもってさらに安心して活動に取り組むことができるように、子ども達1人1人に適した表示の仕方を工夫していきたい。
2	特に自閉症スペクトラムやADHD等、発達障害の子ども達それぞれの特性や個性に応じた支援が手厚い。	発達に関する様々な障害特性について、各種の研修に参加したり、関係者と情報交換したりして理解を深めたり、関係機関と連携して対応の仕方を工夫したりしている。 またその子の個性やクセにも考慮して、子ども達一人ひとりに対する支援の仕方をチームで検討し、対応するようにしている。	子ども達それぞれの強みを活かすために多彩な活動プログラムを用意して、子ども達が楽しく積極的に療育活動に参加できるようにしていきたい。

3	<p>日頃からこどもの様子や状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができている。</p>	<p>こどもについての情報共有は、放デイの利用時に持参する連絡帳での定期的な情報交換の他、必要に応じて電話やメールなども利用して、頻繁に行うようにしている。</p> <p>そうした中で、学校からの申し送りや情報提供されたこと、健康状態や発達の様子について気になること等も保護者と共有し、共通認識・共通理解に努めている。</p>	<p>専門機関や関係機関との連携を強めていきたい、特にこどもが複数の放デイを利用している場合、関係する他の放デイとの情報共有が必要である。</p>
---	-----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言、研修等を受ける機会を設ける必要があると思われる。</p>	<p>児童発達支援センターに関する関心が薄く、放デイとしてどのように関わりを持ったり、利用したりできる機関かという理解や認識があまりなかったのが要因だと考えられる。</p>	<p>まずは児童発達支援センターがどのようなものか、その役割や放デイとの関わりについての認識を新たにし、地域に存在するセンターを調べてみる。</p> <p>その後、当事業所としてどのように利用したらよいか検討することが必要と思われる。</p>
2	<p>放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がなかなか設けられない。</p>	<p>コロナ禍を経て、他の施設や子ども達と交流することについての意識や関心、必要性の認識が低下してしまったことが要因と考えられる。</p>	<p>放デイのこども達が、放課後児童クラブや児童館と交流したり、地域の他の子ども達と活動することの意義を、職員全員で改めて確認し、どのような形で交流することが望ましいか、どのように機会を設けたらいいか等について検討する必要がある。</p>
3	<p>事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営が図られていない。</p>	<p>コロナ禍を経て、他の施設や子ども達と交流することについての意識や関心、必要性の認識が低下してしまったことが要因と考えられる。</p> <p>それに加え、放デイやそこを利用するこども達への偏見を地域住民が持っているのではないかと、正しく認識してくれるかどうか、という職員の不安が大きかったことも要因と思われる。</p>	<p>地域住民との交流の仕方や、放デイや利用する子ども達、障害特性などについて正しく認識してもらうための工夫、また、どのように交流や事業所の行事に参加してもらうとよいか、他の放デイの工夫なども参考にしながら検討が必要である。</p>